

プログラム名	昔のくらし体験学校:衣・食・住 ご飯を炊こう+草木染め+灯りは暗いか?・明るいかな?	
実施団体	○団体名:仙台いぐね研究会 ○代表者名:小金澤 孝昭 ○電話:022-214-3386 ○FAX:022-214-3386 ○連絡先:仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学小金澤研究室気付 ○E-Mail:t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp	
対象者	小学3~6年生	
対象人数	50名(2クラス)まで	
学習場所	屋内(理科室や家庭科室など暗幕があり水が使える部屋)	
学習時間	3時間程度	
実施時期	10~12月	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	プログラムテキスト、蒸しかまど、染物セット、ポスター、ワークシート、 修了書、学生スタッフ(宮城教育大学学生4名)
	利用者側	廃油と油を入れる容器、箸・お椀、暗幕のある教室、松葉 草木染材料費(補助が出る場合は不要)
事前打ち合わせ	2週間前までに打合せ(事前に修了書作成のため児童の名簿が必要)	
効果的な学習段階	総合的な学習の時間や社会科(4年生)の授業に最適です。各小学校の年間計画に合わせて活用してください。	

学習概要	1.学習のねらい	
	<p>昔の暮らしを体験しよう。小学校4年生の社会科の単元に、「昔の暮らしを体験し、考えよう」がある。このプログラムは、昔のくらし体験を衣・食・住の3つのイベントから行います。</p> <p>1つ目の衣のくらしは、草木染体験を行います。身近にある草や花を染物材料にして、輪ゴムや割り箸を使って絞り模様をつけてハンカチを染めます。</p> <p>2つ目の食のくらしは、かまどでご飯を炊きます。持ち運び可能な蒸しかまどを使って、松葉で火をおこし、木炭に火をつけます。釜に研いだ米を入れ、水加減を調節して炊き上げます。調味料はモンゴル産の岩塩を使います。</p> <p>3つ目の住のくらしは、灯りです。各自が持参した廃油で灯りを作ります。昔の灯りの明るさは、どのくらいのものだったか、部屋を暗くして体験します。</p> <p>衣食住の昔のくらしを体験し、今の便利さに感謝しましょう。便利さを当たり前だと思って、無駄遣いはしていないか、みんなでお話し合ってみましょう。</p>	
	2.学習する内容	3.学習のポイント
	<p>このプログラムは、小学校の45分授業で1時間に換算すると、4時間分を使います。構成は、1時間目が開校式と「衣の時間(草木染め)」。2時間目は「食の時間(ご飯炊き)」。3時間目は「住の時間(灯りづくり)」。4時間目はご飯の味見と、「みんなで昔の暮らしと今の暮らしを比べてみよう」(ワークシート)です。最後に閉校式で修了します。</p> <p>(1)開校式、草木染</p> <p>1時間目の開校式では、このプログラムの内容と目的をわかりやすく、ポスターを使って説明します。グループで行動するので、各グループを担当する学生スタッフの紹介を行います。教育学部の学生が、先生体験をしながら子どもたちと交流します。</p> <p>草木染は、夏ならば校庭に咲くマリーゴールドを使い、秋ならば木の枝や玉ねぎの皮を使って染めていきます。ただ染めるだけでなく、模様をつける技があります。絞りという基本的な方法を使います。ハンカチの生地をひねって輪ゴムでとめたり、割り箸を使って生地を巻きつけたりして、絞り模様を浮か立たせます。染め終わって輪ゴムをはずすと、花火のような模様が出てきます。</p>	<p>◆時間割ごとのポイントと気づきについて説明します。</p> <p>(1)開校式、草木染</p> <p>本日の全体のスケジュールと体験する内容を説明します。きちんと聞いておかないと、体験の意味がわからなくなるよ!!ご心配なく、学生スタッフが各時間の目標をその都度説明します。</p> <p>◆マリーゴールドや玉ねぎの皮で染物ができることに気づきましょう。染めるだけでなく、いろんな工夫をして楽しい模様をつけることができることを体験しましょう。きれいな色と、楽しく面白く美しい模様が作り出せます。染と模様作りの知恵に気づきましょう。</p>



草木染めた布から、輪ゴムや糸を外します

(2) ご飯炊き

2 時間目はご飯炊きです。まずお米の準備をして研ぎます。学生スタッフが育てた「いくねの学校米」を使います。農薬を少し減らして栽培したお米で、育てた田んぼには夏に虫が来てくれます。ただ水を入れて掻き回すだけでなく、ちゃんと研ぎます。お米についている糠をきれいに落とします。上手に研げる人はたくさんいませんね（家でお手伝いしているのでしょうか?）。

次は水加減です。歯釜には目盛りがついていません。どうやったらいいのでしょうか?自分の手を使いましょう。

お米の用意ができたら竈に火を入れます。スタッフの学生さんが泉区の朴沢の里山にある炭焼き小屋で焼いた木炭に火を付けます。市販の着火剤は使わず、天然の着火剤を使います。それは何でしょうか?学校の校庭にある松の木の葉っぱを集めて使います。驚くほどの火力です。これで木炭に火がつかました。あとは蒸し竈さんにごんばってもらいます。

ご飯の味付けにモンゴルの岩塩を使います。すり鉢で岩塩を細かくしておきます。上手にすりこぎを使えるでしょうか?ご飯が炊けるまでに 3 時間目を行います。



蒸し竈の火おこし



岩塩を粉にしておきましょう

(3) 灯り作り

3時間目は灯りを作ります。みなさんに持ってきていただいた廃油（容器に入れてきてもらいましたね）にタコ糸を入れます。タコ糸を油の中に入れてすぎると火がつかないので、注意してください。（昔の人はタコ糸がありませんでしたからイグサを使いました。イグサって知っていますか?畳に使われる草ですよ。今回はイグサが手に入らないのでタコ糸を使いました。）

廃油の灯りに火をつけます。上手に火がついたでしょうか?では、教室を暗くしてみましょう。この灯りで、皆さんは本が読めますか?昔の夜の時間の明るさを体感してみましょう。



廃油の灯りを作しましょう

(4) 試食会、閉校式

4時間目になりました。蒸し竈の中でご飯が炊けてきたようです。蒸し竈から歯釜を取り出して、ふたを開けてみます。ご飯は上手に炊けたでしょうか?味はどんな感じですか?みんなで、楽しく、少しだけ味わってみましょう。

今日のプログラムを振り返って、ワークシートを使いながら、昔の暮らしと今の暮らしを比べてみます。そして、考えたことをみんなで議論します。楽しかったり、おいしかったり、おもしろかったりしたら、今日の学校は修了です。手作りの修了書をもらって閉校式となります。



お米を研ぎましょう

(2) ご飯炊き

◆ご飯を研ぐという言葉の意味を体験しましょう。掻き回すだけではなく、糠を研いで落とすことを身体で実感しましょう。

◆竈でご飯を炊くにはどんな手順と作業が必要なのか気づきましょう。火をおこし、沸騰させて、ふたをして蒸らすということで、ご飯が炊けるのです。ご飯は煮るのではないのです。炊くのです。気づきましたか?今の電気釜は、それをやっているのですよ。これまた賢いですね。それを発明する人間の知恵もすごいですね。

(3) 灯り作り

◆灯りはつきましたか?今日は皆さんの家庭の廃油を使いましたが昔はどんな油を使っていたのでしょうか?今日はタコ糸を使って灯りの芯にしましたが、昔は何を使っていたでしょう?

◆灯りの明るさはどうですか?この明るさが昔の夜の時間の明るさです。今の暮らしの明るさと比べてみましょう。今のくらしがどれほど明るいかわかるでしょう。

(4) 試食会、閉校式

ご飯はおいしいですか?モンゴルの塩の味はいかがでしょうか?

衣・食・住の昔の暮らしと、今の暮らしを比べてみんなで考えてみましょう。昔の暮らしにもどらないとすると、今の暮らし方を見直すところはあるでしょうか?

4. 学習のまとめ

昔の暮らしの衣・食・住を短時間で体験するプログラムです。少し忙しいですが、グループに分けて手際よく進めることが大切です。

昔の暮らしを体験学習する際に気をつけることは、昔の暮らしがよくて今の暮らしが無駄遣いでいけないと、決め付けて理解しないようにすることです。今の暮らしには便利ないところがたくさんあります。しかし、この便利なくらしがどのような過程で生まれてきたのかを理解することが大事です。このことがわかれば、今の暮らしが便利すぎることや、無駄遣いすぎているところに気がつきます。そのところをどのように直したらいいのかを考えてください。

最後に、学生スタッフと楽しく体験できたでしょうか?では、さようなら。またね!!

追加・変更できる
学習内容

午前中の時間で目いっぱいなので、とくにオプションはありません。草木染の種類や染めるものをハンカチから手ぬぐいに変えることなどは可能です。

事前・事後学習
についての助言

事前学習では、昔の暮らし全般について教科書を使って学習しましょう。事後学習では、壁新聞や紙芝居を使って自分の感想をまとめましょう。

雨天時の学習内容

主に屋内で行いますので、雨天でも実施します。

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/akari.html>